



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



ゆめみらいスポーツ教室
 (バレーボール)を開催!
 ●1月29日 分水総合体育館

バレーボールでロンドン五輪銅メダリストの迫田さおりさんを講師にお招きして開催しました。参加した中学生は、パスやスパイクなど直接指導をしてもらいました。



ゆめみらいスポーツ教室
 (バドミントン)を開催!
 ●2月11日 分水総合体育館

昨年に続き、バドミントン奥原希望選手が2度目の来燕。奥原選手の的確なアドバイスと熱血指導から、子どもたちは世界レベルの技術を肌で感じたようです。



子どもたちの力作が
 一堂に展示!
 ●1月27日 吉田産業会館

良寛さんゆかりの言葉を課題語句とした良寛書道展。市内小学3年生以上と中学生の銅賞以上の作品が展示されました。



JAXA職員が
 英語の大切さを教えます
 ●1月28日 文化会館

英語学習に取り組む児童生徒に向け、宇宙開発の仕事を行うJAXA 職員の早川瑛庸さんが講演。興味深い宇宙のお話や英語が好きになる方法を教えていただきました。

今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもたちの様子をお届けします!



悪い鬼を追い払おう!!
 大きな声で「鬼は外~!、福は内~!」
 ●2月3日 島上保育園

「悪いものを追い出して、みんなが健康で幸せに過ごせますように」という願いを込めて、節分の豆まきイベントを開催。病気や災害を連れてくる悪い鬼を追い払うため、「鬼は外!」と元気な声が響きました。鬼が退散した後は、「福は内」の言葉のとおり、明るく清々しい笑顔で溢れました。



なるほど! 長善館 最終回

長善館史料館 ☎0256・93・5400
 ●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。



洪水で苦しむ人々を助けた、伝染病から人々を守りたい、この地の暮らしを守り、少しでも豊かにしたい。多くの門下生たちはその実現のために、決して諦めることなく、心血を注ぎました。
 彼らを突き動かしたものは「困った人を助けるために学ぶ」「学んだら実行する」という長善館の教えに他なりません。10年後の2033年は文臺が長善館を開いて200年。桜の木々の下、分水の雄大な流れの前に川音を澄ますと、文臺をはじめ歴代教師や多くの門下生たちの「CHOZENISMで生きていくか」と問いかけの声が聞こえてきます。

よもやま話

良寛像アレコレ

全国良寛会会報「良寛だより」の一号〜百号までが、完全複製版として出版された。創刊号は昭和53年1月刊行。表紙は画家・富川潤の「五合庵清閑」の絵で、囲炉裏端に座っている良寛が描かれている。八号から画家・こしの千涯の「子供と良寛」の絵になり、十六号に分水町良寛会「良寛を描く作品展」目録より阿伎良画・御風寛の絵が表紙を飾った。表紙はしばらく良寛の遺墨の紹介が続くが、八十九号に当館所蔵の三森九木画・良寛賛の「袖裏毬子価千金」が登場する。



一方、全国良寛会機関紙「良寛」は昭和57年5月創刊で、この号に分水良寛会の玉木孝二氏が「良寛音声考」という論考で良寛の「五十音図」への関心がどこにあったのかを分析している。三号、八号に続稿を載せ、八号の「良寛禪師の五十音図」は「音図本来の目的である仮名による漢字読解の方法を明確にするため」と推論している。

最終号・五十号では同じく分水良寛会の藤田正夫氏が「良寛の法弟遍澄」を寄稿され、数少ない遍澄に関する貴重な論考となった。特に貞心尼所蔵の遍澄が描いた立ち姿の良寛像(史料館展示・複製)についての分析は一考に値する。当館では、「新春企画展」としてさまざまに描かれた良寛像を展示中である(3月19日(日)まで)。

分水良寛史料館 ☎0256・97・2428 (月曜日休館)
 ■入館料 大人300円 学生200円 小・中学生100円 ※団体割引あり



大河津分水100年に向けて
 大河津分水から未来をつくる

江戸時代、水害に打ちひしがれる人々を見て良寛さんは言いました「この世に神がいるなど疑いたくなる」。それでも諦めなかった人々は、和釘づくりに生計を見出すなどし、この地で生きてゆく道を選びました。横田切れで、燕や新潟が壊滅しかかったとき、長善館の門下生は声を大にして訴えました「今こそ大河津分水をつくるとき!」。やっと始まった工事は、地すべり、機械の暴発、ツツガムシ病など艱難辛苦のオンパレード。1922年、ついに通水し、迎えた竣工式で工事の最高責任者は言いました「私がついても感謝をしているのは働いてくれた人々だ」。200年の悲願が叶ったとき、ある人は桜を植え、ある人は石碑を建て、ある人は手記を、写真を遺しました。



▲皆さんの想いと笑顔に支えられ素晴らしい100周年となりました。ありがとうございました!

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.60

こんにちは、スポーツ担当の久保です!
 私は、この3月をもって、任期満了のため燕市地域おこし協力隊を卒業します!
 2020年春に関西から新潟へ移住し、3年間の活動でした。初めて来燕した時は、田んぼが広がる風景と、消雪パイプの影響で茶色になっている道路にとっても驚きました。冬は雪に苦しみました…。「燕市は新潟県内だと降らない方」とよく耳にしますが、それでも「新潟の雪は多いな〜」と毎年感じています(笑)。
 燕市や新潟県のことをたくさん知り、美味しいラーメンをたくさん食べ、素敵な出会いがたくさんあり、とても実りのある3年間となりました。この3年間で得たことや感じたことを活かして、これからも頑張っていきます!!

最後は、協力隊の同期・芦川さんと一緒に!



燕市地域おこし協力隊 久保 陽菜乃 (写真左)